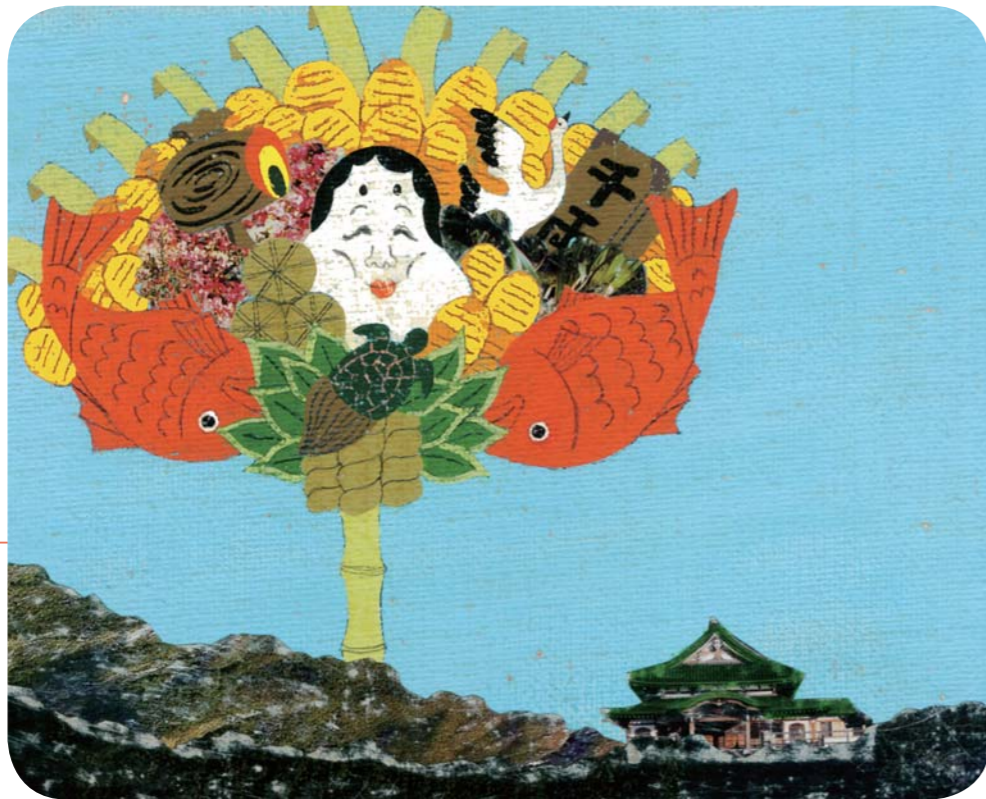


illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 7

首都高名所案内  
八潮、花畑  
田園時代の  
回想  
コラムニスト  
泉 麻人

首都高の6号向島線(下り)は左に隅田川、右に東京スカイツリーが眺められる、いまだき絶景のラインといえる。小菅ジャンクションから三郷線に入って、八潮南で降りた。このあたりは中学生の頃の思い出が刻まれている。受験して入った都心の私立中学には遠方から通ってくる奴もけっこういた。入学してまもない頃に知り合った

I君は草加の谷塚駅近くの瀬崎町に住んでいて、遊びに行ったことがある。彼の家を訪ねたのは一度きりだったが、そのとき探検まがいのことをしたのでよく憶えている。当時(1969年頃)は町を外れると延々と田んぼが広がっていた。ワンパクな野生児風のI君は、野良道に繁った雑草をちぎって、器用に作った草笛なん

かを吹きながら歩いていく。僕もならってやってみたが、一向にうまくできなくて「ヘタクソ」とバカにされた。道路表示に見える大曾根という地名は強く印象に残っている。遠くまで来過ぎて、この大曾根という集落の所でバスに乗って引き返したのである。当時は確か「草加せんべい」の看板を出した素朴な店が目につくくらい寂しい場所だったが、いまはわずかばかりの畑を残して、広い通りにファミレスやカラオケ店、工場が並ぶ郊外のニュータウンに変貌している。そういえば、大学で知り合ったU君も八潮の生まれ育ちで、八潮市役所に勤務しているはずだ。久しぶりに訪ねてみようか……と思ったが、本日は日曜日。綾瀬川ぞいの道を南下することにした。

が催されるようになった。祭りは俗に「酉のまち」と呼ばれ、獅子舞いが奉納される……と謂れが記されている。緑青色の屋根の軒先に、昇り竜と降り竜の彫刻が施された本殿の佇まいも奥床しい。当日はまだ七五三の参拝客が見受けられる時期だったが、歳末の酉の市の風景というのも眺めてみたいものだ。

もう、このすぐ向こうは東京の足立区。北東端の花畑(7丁目)に大鷲神社がある。駐車場の脇から農家の私道のような所を通って入ったこの神社、ケヤキやクスノキの老木が鬱蒼と繁った境内はいかにも野里の素朴な神社、という感じだが、実はここ花畑の大鷲様こそ浅草より先の「酉の市」の源といわれている。

社社の北側には毛長川、東の道づたいには綾瀬川が流れ、いまは町工場や団地が並ぶ地域となったが、I君と探検した頃にこちらの方までやってくれば、小川の向こうに鎮守の森をたざさえた、のどかな景色が眺められたのかもしれない。

平安時代に創建され、応徳年間の1084年頃から11月の酉の日に祭り

帰路は加平から首都高に入ることにしよう。この螺旋状の入路も、できた当初は思わずSF映画の1シーンが想像される、刺激的なスポットだった。

いづみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京考現学図鑑』(編著 学研パブリッシング)がある。

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 海外展開

- 5 **基本は「三方よし」**  
公益社団法人土木学会 顧問  
古木守靖
- 10 **日本の良さを活かす**  
独立行政法人「国際協力機構(JICA)」経済基盤開発部 部長  
小西淳文
- 12 コラム バイ・ザ・ウェイ 太田治子
- 14 CHALLENGE  
海外ビジネスの展開
- 15 データ物語  
ルートを選んで、より使いやすく!
- 16 **首都高HEADLINE**
- 18 business essay  
ツキって、いったい何だ  
帝京大学 経済学部 教授  
小島寛之
- 20 つくる人まもる人  
首都高速道路株式会社  
佐藤達雄
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito  
contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited